

## 様式 2

### 全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：経済と社会

部会長名：石黒一彦

作成者名：石黒一彦

#### 概要（2000 字）

##### 1. 組織・運営

「経済と社会」部会の構成員は、平成 22 年度を通して 29 名であり、その内訳は以下の通りである。

経済学研究科 15 名（教授 9 名，准教授 5 名，講師 1 名）

経営学研究科 3 名（准教授 1 名，講師 2 名）

農学研究科 2 名（教授 2 名）

海事科学研究科 1 名（准教授 1 名）

国際協力研究科 4 名（教授 2 名，准教授 2 名）

経済経営研究所 4 名（教授 4 名）

「経済と社会」年間全 18 コマを，原則として経済 7，経営 2，農学 3，海事 2，国際協力 3，経済経営研究所 1 として分担している。部会長は 1 年ごとのローテーションで経済学研究科，国際協力研究科，経済学研究科，農学研究科，経済学研究科，海事科学研究科の順に担当研究科を決め，その構成員から選出している。部会長を務める前の 1 年間は幹事を務めることとしており，円滑に引き継ぎが行われている。部会構成員間での連絡及び調整は，部会長を中心として主に e-mail によって行われている。

##### 2. カリキュラム

「経済と社会」部会が担当する科目は次の 4 種類である。年度により若干の変動があるが，今年度の開講数を括弧内に示す。

経済入門(3)

経済社会の発展(4)

現代の経済(9)

企業と経営(2)

いずれの科目も経済学や経営学を専攻しない学生を対象に，専門的予備知識を必要としない内容の科目として提供されている。「経済入門」は主に経済学の基礎を中心に，「経済社会の発展」は経済社会の歴史を中心に，「現代の経済」は国内・世界経済の現状の理解を中心に，「企業と経営」は経済社会における企業の役割を中心に，それぞれの内容が構成されている。ここの授業では，それぞれの科目の学習に必要な一般的知識・理論・諸概念の理解等の修得が目指されるとともに，各授業担当者の専門分野に基づいた個別トピック，具体的な経済社会問題についての解説など，初学者にとって興味が持てるような内容が工夫されている。

##### 3. 活動の状況，課題と展望

担当教員の多くは，一方向的授業に終わってしなわないように様々な工夫を凝らしている。大学入試時の受験科目によって受講生間の予備知識のばらつきが大きいので，授業中に，特に関連の強い地理・歴史・数学等の予備知識の有無を受講生に確認しながら授業を進めている。また複数の担当教員が，現実の経済現象の事例を資料として示して説明するなど，受講生に対して現実の経済の動きについての興味を喚起している。その一方で，受講生の予習・復習等の自発的な学習の時間が短いという結果が現れており，今後，課題を増やすなど，授業時間外の学習を促す努力も必要である。

様式 2 (続き)

**項目・観点ごとの記述**

基準 5 教育内容及び方法

5-1-②: 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

(観点に係る状況)

はい。

4 種類の科目を開講し、さらには担当教員によってそれぞれ様々な内容を盛り込んだ授業を展開しているなど、多様な科目構成となっている。

根拠資料  
シラバス、規則集

5-1-③: 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

(観点に係る状況)

はい。

根拠資料  
シラバス、テキスト、スライド、配布資料

5-1-⑤: 単位の実質化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

はい。

根拠資料  
シラバス、レポート、試験、各教員の web ページ

5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。)

(観点に係る状況)

はい。

プロジェクタを用いての講義を行うなど、板書以外の「見せ方」を工夫した授業が行われている。ただ、当部会の授業には受講者が 100 名を超えるものも多く、個別対応や討論型授業には向かない。この問題への対処として、基礎知識を補うための資料配付、授業中・授業後の質問受付、レポート課題による主体的な学習の促進などの工夫がなされている。

根拠資料  
シラバス、パワーポイントファイル、スライド、DVD、配布資料

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

いいえ。

組織的な配慮は行われていない。各授業により必要な基礎知識が異なるため，各授業担当者により，レポート課題，資料配付，質問受付などの対応がなされている。

根拠資料

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。  
(観点に係る状況)

はい。

根拠資料

シラバス，試験答案，レポート，出席表

## 基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

はい。

授業評価の結果から見て，概ね教育の目的は達成されていると考えられる。

根拠資料

授業評価

## 基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

はい。

授業後に質問時間を設けている。教員のメールアドレスを学生に案内することにより，メールでの質問も多い。オフィスアワーは設定しているが，利用は少ない。

根拠資料

シラバス，配布資料